



# 夢見た舞台へ 二〇二三年射手 中村考晴の挑戦

8月4日、中村考晴君は流鏑馬保存会より正式に射手に任命されました。

考晴君が900年の歴史を誇る高山流鏑馬の大舞台へ名乗りをあげたのは、昨年の流鏑馬を見たことがきっかけでした。小さい頃から地元の伝統行事として触れてきた流鏑馬が一転。普段から学校、部活動で先輩の吉永昊志朗君の射手姿に心奪われた考晴くん。

先輩の大きな背中を追って、若き射手の挑戦が幕を開けました。

## 14歳の挑戦

9月、考晴君の挑戦がいよいよ始まりました。今年は長年射手を乗せていた「流星号」と「未来号」が引退。新たに保存会は「はやて号」「令号」を迎えることになりました。さらに、かごしま国体が開催されることで、例年よりも1週間後ろにずれ込むスケジュール。さらに今年はやぶさめ祭が開催されるなど、新しいことばかり。

そんな中でも考晴君は、日々努力を怠らず、練習場だけでなく家でもトレーニングをする毎日。始めは昊志朗君に教えてもらいながらの練習もあつという間に自分のものにし、神馬たちと息を合わせて本番に向け積み重ねていきました。



また、かごしま国体に先立ち、佳子内親王殿下が練習を見に来られた際も、堂々とした走り、高山の伝統行事「流鏑馬」を佳子内親王殿下にご覧頂いていました。

いよいよ約2か月の練習を終え、潮掛けの日は雨が降る中、柏原海岸に向かい、同級生たちに見守られながら身を清め、本番を待つのみとなりました。

